

〔NPO 法人シビルまちづくりステーション 船橋防災関連プロジェクトチーム〕

【団体の概要】

記入日:平成 28 年 3 月 31 日

1. 市民参加による市民・行政との協働によるまちづくりとNPOとの連携。
2. 緑化・芝生化活動；校庭（小・中学校）、園庭（幼稚園等）の芝生化を推進。
3. 教育・啓発活動；まちづくりを中心とした講習会開催による教育・啓発を行っています。
4. 防災および被災地支援活動・被災地支援等。
自治体・地域住民への情報提供。現地技術調査等。



【中・高生による夏の体験学習】

<事業報告> 【支援金確定額：47,237 円 支援率：50%】

■実施した事業の内容

土砂災害危険個所の抽出や調査状況に関して千葉県河川整備課、船橋市危機管理課、宅地課にヒヤリングを行った。危険個所の選出、基礎調査は県河川整備課が行い、船橋市危機管理課は避難勧告等が発令された場合の避難勧告等を周辺住民に対し周知徹底や避難指示等を行う役割であることを認識しました。

土砂災害は「がけ崩れ」「土石流」「地すべり」の3種類があり、船橋市内では地形・地質の関係から「がけ崩れ」のみ発生が想定されます。

土砂災害危険個所（平成14年調査）は船橋市内で60箇所存在し、26個所の基礎調査が完了しており、残りの箇所は平成31年までに終了の予定です。

「ふなばし夏のボランティア体験」の一環として中・高生を対象にした「自分の街を知り、災害を知って、何をすべきか考えよう！」をテーマに体験学習を延べ3日間開催し、土砂災害の基礎知識、現地調査、そのまとめなどを行いました。

セミナーは土砂災害危険個所が分布する自治会の方々を対象に開催しました。内容は激化する自然災害や土砂災害についての講義、DVD（避難してよかった等）の上映、クロスロードゲームおよび意見交換を実施しました。

年間の活動報告として「土砂災害防止法と基礎調査」「土砂災害を知ろう」の小冊子を発行。

■支援金の支出内容

中・高生の体験学習やセミナー開催広報や参加者募集のためのチラシや講習会の配布資料を作成するための材料費や印刷費に支援金を支出しました。また、参加者への連絡に通信費を使用。

活動状況報告として上記小冊子作成の材料費・印刷費に支援金を使用しました。

また、体験学習やセミナー等の開催に公民館使用料を支出しました。

■事業の成果と今後の展望

中・高生の体験学習を通じ、自分たちの住む地域での自然災害に対して認識を深め、今後の社会活動に役立てたいとの意見があり、頼もしく思いました。

セミナーでは土砂災害警戒区域の指定に関し、住民の方々から危険個所は指定の有無に拘わらず危険であり、資産価値の低下を理由に他の人を犠牲にすべきではなく、対策工実施のためにも指定すべきとの意見があった。

今後さらに地元との意見交換の場を設け、これを踏まえた土砂災害対策の提言、安全・安心社会の構築が肝要と考えます。

28年度支援事業は不採択になったが、60箇所以上の危険個所が存在し、当NPOの今後の独自調査が必要であると判断しています。



【セミナーにおけるクロスロードゲームの状況】

■問い合わせ先：代表 花村 義久（はなむら よしひさ）

TEL：047-439-2082

E-mail：y-hanamura@nifty.com